学校法人ノースアジア大学広報

さくら

SAKURA

2009.11 November No. 220

CONTENTS

02 / 教育諮問会議を設置・就職試験対策講座
03 / 看護福祉大：福祉行政コースの紹介・日本社会福祉学会のようす
04 / 看護福祉大：オープンキャンパス／キャリアセンターの取り組み
05 / 高校：四川高校生訪日団が来校・甲子園報告
06 / 高校：定期演奏会・国体報告ほか
07 / 幼稚園：運動会・交通安全の誓い
08 / インフォメーション

ノースアジア大学諮問会議を設置

～学習環境作りへの提言を求める～

本学では「教育の質の向上」「学ぶ意欲の喚起」「学生・生徒の学習と生活支援の充実」を教育方針の柱に据えて改革に取り組んできました。

このたび、学生たちが大学生活を送る中で目標を失わないために、一人ひとりの意欲を引き出せるような、きめ細かな教育・指導の充実を図るため、社会での経験が豊かで、現代の教育問題に関心の高い方々から、大学の教育に意見をいただく機関として、ノースアジア大学教育諮問会議を設置しました。

今後は、委員から大学教育の基本的な方針について、様々な角度からご意見をいただき、上記の３つの教育方針の柱をさらに推進していきます。

この会議で提言されたことは、実行可能なものから事業として随時実施していく予定になっています。

教育諮問会議の委員

橋 本 五 郎 氏（読売新聞特別編集委員）
矢 口 高 雄 氏（漫画家）
岡 田 裕 介 氏（東映株式会社　代表取締役社長）
内 館 牧 子 氏（脚本家）

教育諮問会議委員からのコメント

橋本五郎委員

「学生が、希望を持って入学し、生き生きと学ぶ環境づくりに少しでも貢献できたらよいと思っています」

矢口高雄委員

「入試という難関をくぐり抜けた反動なのか、大学生になったとたん本分を置き去りにして無為な時間を過ごす学生が少なくない、と聞きます。もちろん多くの友人を作ることや、サークル活動を通じて得られるものは、学生生活の重要な一部には違いありません。

しかし、学生の本分は一にも二にも勉強することでしょう。勉強が面白くて、毎日が楽しいと思えるような「ノースアジア大学」になってもらうために、お役に立てればと思っています。

3年生対象 就職準備講座で自分磨き

～就職活動の第一歩を学ぶ～

９月４日から９月10日までの平日の５日間、大学３年生対象の就職試験対策講座が行われました。

外部から講師をお招きしてのリクルートスーツ講座やメイク講座、履歴書の書き方、SPI・筆記試験・面接などの対策、就職情報サイトの活用法など、就職活動に必要な情報を網羅した講座が行われました。

７日には、フレッシュワーク秋田による「就職いろは講座」にも参加。他大学・短大・専門学校などの学生たちと共にガイダンスやディスカッションに参加しました。

５日間を通して講座に参加した佐藤誠さん（法学部３年生）は、「講座を受けてみて就職活動に対する気持ちが引き締まりました。今後は会社説明会などがあれば、積極的に参加したいと思います。また、面接の重要さを実感しましたので、日頃から話し方に気をつけていこうと思いました。これからもキャリアセンターの講座があれば、積極的に参加していきます」と話し、この講座が本格的な就職活動開始の意識付けになった様子がうかがえました。

福祉行政コースから秋田県警に合格

秋田看護福祉大学

高齢社会に活躍できる警察官を目指して

秋田看護福祉大学　社会福祉学科　**篠木晋一郎** さん

私が警察官を目指したのは、警察官の方々が大学を訪問しての説明会がきっかけです。秋田県は全国一の高齢社会ですので、福祉を学んだ人材は今後ますます必要になってくることを感じ、警察官になることを決意したのです。

試験に向けて本格的な勉強を始めたのは今年４月からなので、短い間ではありましたが、あきらめずに頑張りました。また体力試験もあるので、毎日のランニングも欠かさず行いました。

一次試験、二次試験と受験して感じたのは試験当日に「何が何でも警察官になるんだ」という熱い気持ちをもって試験に臨むのを忘れないことです。自分が警察官になった時の様子を思い描きながら、気持ちを入れて試験を受ければ自分の潜在能力よりはるかに良い結果がついてくると思います。少なくとも私はそうでした。あきらめないことがなにより大切です。

福祉の知識を生かせる警察官に

秋田看護福祉大学　社会福祉学科　**佐々木広武** さん

大学三年時から、公務員を目指し、学内の対策講座やセミナーに参加していました。特に四年時より、「福祉行政研究室」に入室し、資料などが整った環境の中で集中して勉強することができました。

これまで大学で福祉を学び、その知識及び技術を生かせる場へ就職することを望んでいたため、当初、警察官という選択肢はありませんでした。しかし、大学で行われた、秋田県警察官の採用試験及び警察官の職務に関する説明会に出席し、警察官という職務こそ福祉の知識を身につけた人でなければならない事を知り、試験を受けようと思いました。

警察官は、福祉の現場で働く人と同じ対人援助が中心となる仕事だと思っています。仕事に対する責任や、他人との接し方はこれまでの様々な経験から学んできたつもりです。自分の持てる力を十分に発揮し、人々に求められるような警察官になりたいと思っています。

福祉行政研究室長からのメッセージ

人口高齢化の本格的なモードに入った現代の日本ほど、福祉の専門知識をもった行政マンおよび警察官が必要な時代はありません。青少年や高齢者、障害者を巻き込む事故や事件が多発しているため、人との係わり合いが今まで以上に必要となり、これまでのプロトタイプ的な行政サービスのあり方では、これらの諸問題に対応できなくなってきたからです。今回合格した彼らには、地域に愛着をもち、高齢者や障害者の立場に立って、福祉の専門知識をフルに活用することで、現代日本における社会的諸問題の解決のための一歩を踏み出し、希望のもてる日本を創ることを期待します。

日本社会福祉学会　東北部会開催

自殺予防と遺族のケアを考える

７月18・19日の両日、秋田看護福祉大学を会場に日本社会福祉学会東北部会第９回研究大会が行われました。「秋田県の福祉問題：自殺」を大会テーマとして行われた今回は、自殺予防と自死遺族へのケアという観点から議論が行われました。

大会では、秋田大学 大学院医学系研究科長・医学部長の本橋豊氏による基調講演や、全国ネットを通じて自死遺族の方へのケアに取り組んでいる涌井真弓氏、山口和宏氏を迎えてシンポジウムが行われました。

この基調講演、シンポジウムは、地域住民にも公開され、日本社会福祉学会会員や本学教職員・学生などの他、46人の市民の方が参加し、盛況な大会になりました。

シンポジウムの最後には、たくさんの質問が寄せられると共に、貴重な意見が出され、活発に議論されました。

第４回 オープンキャンパスを開催

平成21年度

秋田看護福祉大学

９月12日、第４回オープンキャンパスが秋田看護福祉大学の学内６会場で開催されました。秋田県内を中心に、東北各県の高校生約60人・保護者の方約30人に参加していただきました。今回のオープンキャンパスは、「ＡＯ・推薦入試の傾向と対策」をテーマに実施。参加した高校生は自分の聞きたい入試分野を自由に選択し、それぞれの出題傾向や試験の対策について、熱心にメモを取りながら聞いていました。今回はＡＯ・推薦入試前最後のオープンキャンパスということもあり、ほとんどの参加者が最後の個別相談会に残り、各担当者へ熱心に質問をしていました。参加した生徒からは、「助産師の国家試験受験資格を取れる大学なので、ぜひ入学したい」「福祉学科に入学し医療ソーシャルワーカーとして働きたい」「手話を学びたい」等の感想があり、目的意識をはっきりと持った生徒が多いのが今回の特徴でした。

次回のオープンキャンパスは、平成22年３月20日（土）午後１時より、高校２年生・１年生向けに開催いたします。

秋田看護福祉大学では、都合によりオープンキャンパスに参加できない方等を対象として、個別進学相談会を随時（土日祭日問わず）開催しております。キャンパス見学だけでも可能ですので、希望の方は秋田看護福祉大学学務課入試係（TEL.0186-43-6510）へお問い合わせ下さい。

ノースアジア大学キャリアセンターの取組み

10月１日、学生のための就職情報を提供する各サイトが稼動し始め、現大学３年生、短大１年生の就職活動が本格化してきました。

キャリアセンターでは、厳しい経済状況の中でも学生が志望する企業から内定を獲得できるよう教職員が連携し、一人ひとりと向き合い就職の活動支援を行っています。

今年は、７月下旬から現大学３年生、短大１年生全員と進路に関する個人面談を行い、学生たちがどの職業に就きたいのか、就職に対しての意識をどの位持っているのかなどの把握に努めました。そして、就職活動で必要な基礎を固めると共に意識を高めるため、昨年度より早く、９月初旬から５日間連続で「就職試験準備講座」を開催しました。

加えて、10月からは大学３年生、短大１年生の就職活動を支援する情報を学生個人に直接提供し、昼休みを活用した筆記試験の対策講座や、「就職ガイダンス」の実施、学生の個別相談等で継続した支援を行っています。

その成果として、このほど開催した本学主催の「企業研究セミナー」（10月９日・本学40周年記念館、参加企業50社、参加学生数360人）では、終了直前まで学生たちが企業のブース席を訪問し、少しでも多く情報を得ようと熱心にメモを取る姿が見られました。

来春卒業予定の大学４年生、短大２年生に対しては、「企業研究セミナー」の他、求人開拓と学生の個別相談を強化しています。また企業の採用担当者に学内で採用試験を実施していただいており、今後も企業との連携を図って、学生の就職に結びつける支援を教職員一丸となって積極的に行います。

中国四川高校生報日団が来校

～明桜高校生と交流～

8月28日、中国四川省の高校生43名を含む訪日団の一行50名が明桜高校を訪問し、生徒たちと交流しました。これは、昨年5月の四川大地震で被災した現地の高校生を励ましそうと財団法人日中友好会館の交流事業として行われたものです。

歓迎会では、明桜高校生徒会長の金泰希さんが「中国研修旅行では、歴史の深さを感じました。皆さんにも日本で多くのものを見、感じて欲しいと思います」と挨拶。

中国の生徒を代表して楊 敏（よう びん）さんが「思いやりの心、真心、友情を世界の隅々にまで一緒に伝えていきましょう」と話しました。

その後の体験授業では14のグループに別れ、それぞれ英語や国語・数学などのほか、華道や茶道など日本の文化を学ぶための特別授業を受けました。

フードデザインの授業で中国の生徒をサポートした菅原悠佑さん（3年生）は「中国では調理実習の授業がないため、最初に通訳の方からなぜ料理をするのか説明がありました。みたらしあんも初めて食べたようですが、帰国してからも作りたいと、通訳の方にレシピを翻訳してもらっていました。

この交流を通して、言葉は通じなくても笑顔は共通なのだということ、表情でも交流はできるのだということに気付きました」と話してくれました。

授業後は吹奏楽部のWelcomeコンサートに参加。学園の宿泊施設に宿泊し、生徒たちと交流を深めました。

交流会などを企画した金泰希さん（3年生）は「日本語の読み方や文化などについて、積極的に質問してくるなど、自分から進んで学ぼうという学習意欲が高い人が多いと感じました。交流会では、自分たちがふだん学んでいることを生かすことができたと思います。

これを機会に、今後は中国に限らず様々な国と交流を持っていきたいと思います」と充実した2日間を振り返りました。

1990年以来の勝利へ あと一歩及ばず

第91回全国高等学校野球選手権大会における明桜高校と日本航空石川との試合は、雨で当初の予定より2日間順延となって8月15日、阪神甲子園球場（兵庫県西宮市）で行われました。

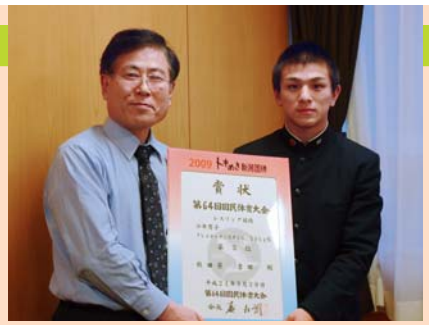
一塁側アルプス席は、明桜高校の生徒、学園の教職員、関係者などでほぼ満員となり、試合開始から勝利を願う熱のこもった応援が行われました。試合は、明桜高校が初回に2点を先制し、日本航空石川も試合中盤の5回に同点に追いつく展開となりました。

その後は、両高校の投手や守備陣が頑張り、9回で勝負がつかず延長戦に入りました。12回、日本航空石川に僅かな隙をつかれて明桜高校は惜しくも2－3で破れました。

明桜高校硬式野球部を応援してくださり、誠にありがとうございました。

新潟国体で３位獲得

～レスリング・グレコローマンスタイル



９月に新潟で行われた第64回国民体育大会において、明桜高校の吉田剛さん（３年生）がレスリングのグレコローマンスタイル50kg級で３位を獲得しました。吉田さんはインターハイ、全国高校生グレコローマン選手権でベスト８と、全国大会で着実に成績を挙げてきました。９月の合宿で右ひざを故障しましたが、リハビリと平行して足に負担をかけないように作戦を考え、試合で実践してみごと３位に輝きました。吉田さんは「準決勝まできたら優勝するしかないと思って試合に臨みました。結果は３位でしたが、もう一つ上の成績を残せたと思っています」と悔いが残る様子でした。しかし怪我の影響については「言い訳にしたくない」ときっぱり。高校卒業後もレスリングは続けて行きたいと話してくれました。

将来の自分を考えるために

～明桜高校生がボランティアを行う～

７月27～29日の３日間、秋田市内の精神障害者の交流スペース「ユックリン」へ明桜高校生がボランティアで訪問しました。

それぞれ介護と看護に興味があったという畠山理菜さん（２年生）、星川由貴さん（２年生）の２人は、校内に掲示してあったボランティア受入施設の一覧表を見て訪問を決め、申し込みなど全て自分たちで行いました。

ボランティアを行う際の注意点について指導を受けた後、他のボランティアの方々と一緒に、施設の掃除や利用者の話を聞くといった役割をこなしました。

２人は「利用者と話してみて、精神障害の方のイメージが変わりました。ボランティア終了時には『いつでもおいで』と言っていただいたので、また訪問したいと思います」と話してくれました。

今回のボランティアの他に、肢体不自由児の施設も訪れたことがあるそうで、今後も様々な施設でボランティアを行いたいと語りました。

高校吹奏楽部が第18回定期演奏会を開催

明桜高等学校吹奏楽部が、９月22日、秋田市文化会館において定期演奏会を開催しました。

第一部では、秋田県内外でご活躍のトロンボーン奏者の佐々木渉氏をお迎えし、Ａ.アルチュニアンのトロンボーン協奏曲や交響詩「ローマの松」第４曲「アッピア街道の松」の演奏をステージと２階に分かれての演奏（バンタ）など趣向を凝らした構成で会場を盛り上げました。

第二部では「アメリカングラフィティー」など軽快な演奏で観客席とステージが一体となって盛り上がりました。

演奏終了後、吹奏楽部３年生から後輩へ「全日本吹奏楽コンクールに向けて練習しているときが最も大変だった。それを乗り越えたことで今日は良い演奏ができたと思う。今後、１・２年生は練習をしっかりとがんばって明桜高校吹奏楽部の新たな歴史を作ってほしい」とメッセージが送られました。

のびのび幼稚園・保育園で運動会

9月12日、のびのび幼稚園・保育園の運動会が行われました。

オープニングを飾ってくれたのは、年長組のチア＆組体操。ぽんぽんや旗を持った子どもたちがリズムに乗って登場すると会場からは大きな歓声と拍手が沸き起こりました。

息の合った組体操を披露してくれたあとは、全園児がフィールド内に集まってお遊戯を踊り、いよいよ運動会がスタートしました。

競技の中で、保育園の子ども達のほのぼのとした仕草、思わず顔が綻んでしまうほど愛らしい姿がたくさん見られました。

年少組のかわいい「よーい」のポーズ、年中組が胸を張ってゴールテープを切る姿、年長組の力強いマーチング、思わず息をのんだリレー、楽しい秋のひとときをすごすことができました。

よーい ドン！

げんきっこ あつまれ！

さくら幼稚園

9月19日、さわやかな秋晴れの下、ノースアジア大学グラウンドにてさくら幼稚園の運動会が行われました。オープニングは全園児によるマーチングでした。3歳児によるポンポンダンス、4歳児は旗やフープバトン、5歳児は鼓隊で盛り上げました。その後各年齢毎に競技を行い、みんな力一杯頑張りました。

午前の部が終わって、各家庭毎においしいお弁当を食べました。最近は、午前中で終わる運動会が多いのですが、さくら幼稚園では家族みんなでお弁当を囲むゆったりとした運動会を行っています。

午後からは卒園児の徒競走、祖父母競技、全園児保護者一緒のヨサコイを踊って閉会式となりました。最後の運動会となった年長児は、園長先生から一人ずつトロフィーをいただきました。どの子の顔も誇らしげでまた一つ自信につながった行事となりました。

ご協力いただいた保護者の皆様、遊びに来てくれたお友達、皆さんどうもありがとうございました。

フレー フレー

フレー フレー

みんなで守ろうね　交通安全

附属のびのび幼稚園、　附属さくら幼稚園の園児たちが交通安全運動に参加

8月31日、のびのび幼稚園キラキラ組、ぴかぴか組（年長組）が、「みんなで守ろう　交通安全全国キャラバン隊　メッセージ伝達式」に参加しました。

参加した園児を代表して2人が「交通事故の話を聞くと悲しくなります。事故が無いように、お父さんやお母さん、先生と交通安全の約束を守ります。」と交通安全誓いの言葉を述べました。

園児たちは、元気な遊戯を披露し、キャラバン隊を激励しました。

また、9月25日にはさくら幼稚園つばめ組（年長組）、はと組（年中組）が「交通安全フェスティバル」に参加しました。

この行事は秋の全国交通安全運動の一環として行われるもので、園児たちは、ミニ交通安全教室で交通課員から横断歩道の安全な渡りかたなどの話をしっかりと聞いていました。

ミニ交通安全教室のあとは、交通安全を願って元気な歌声、踊りを披露しました。

最後に「青信号になっても左右の確認を忘れません」などの交通安全誓いの言葉を大きな声で話しました。

さくら SAKURA No.220
平成21年11月10日　編集・発行　理事長総室　〒010-8515 秋田市下北手桜字守沢46-1　Tel. 018-836-6527 Fax. 018-836-3321 URL. http://www.nau.ac.jp/houjin

インフォメーション

平成21年度後期シティカレッジ 福岡政行氏講演会

白鷗大学教授・ノースアジア大学客員教授福岡政行氏の講演会を行います。

第１回目は、「民主党政権で日本はどうなる！」と題して、自民党政治が終わり、鳩山新政権で日本はどうなるのか、霞ヶ関改革・マニフェストの実現はできるのか、自民党はどうなって行くのかなど、今後の政局について語ります。

【日時】11月20日（金）　開場13：30　14：00～15：30

【会場】明徳館ビル２階　カレッジプラザ講堂

※入場無料

お問い合わせ

ノースアジア大学総合研究センター

TEL　018－836－6592・4531

http://www.nau.ac.jp/~center/

園開放 のびのび幼稚園をご覧いただけます

のびのび幼稚園では、来年度入園を予定しているお子様と保護者を対象として、幼稚園をご覧いただく機会を設けております。

今月は下記の日程で開催を予定しておりますのでぜひご参加ください。

【日　時】　平成21年11月26日（木）10：30～11：30

【場　所】　認定こども園ノースアジア大学附属のびのび幼稚園・保育園

（秋田市茨島４丁目１－20）

内容などの詳しい情報につきましては決まり次第、園のホームページでお知らせいたします。

http://www.nau.ac.jp/nobi

平成22年度園児募集

ノースアジア大学附属のびのび幼稚園では10月１日から平成22年度新入園児を募集しています。

園児募集についての詳細は次の通り。

		認定こども園 附属のびのび幼稚園
募集人数	１年保育（満５歳児）	10名
	２年保育（満４歳児）	40名
	３年保育（満３歳児）	70名
	満３歳児保育	若干名
申し込み受付		平成21年10月１日より受付を開始。募集定員に達し次第締め切り。
新入園児面接日		平成20年12月２日㈬ 午前10時～
面　接　会　場		附属のびのび幼稚園

※１　新入園児面接日には、面接、身体検査を行います。
※２　入園の許可書は、面接及び身体検査終了後、１週間以内に送付します。

なお、附属さくら幼稚園は募集定員に達しましたので、受付を終了しました。

お申し込み・お問い合わせ

認定こども園

ノースアジア大学附属のびのび幼稚園

TEL　018－823－4540　FAX　018－863－4918